参考資料２

令和２年度の事業実施状況（荒尾市・荒尾市観光協会実施分一部抜粋）

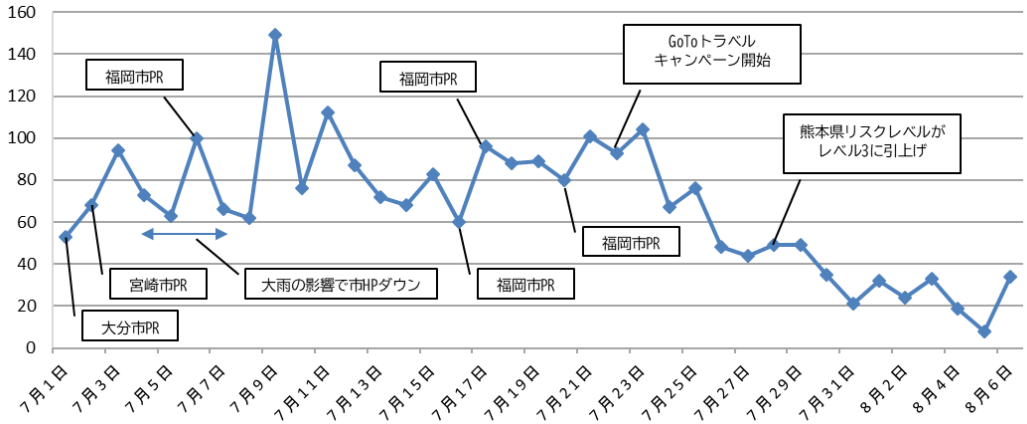
●宿泊支援事業「あらおに“Go ばい！”キャンペーン」

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により荒尾市へ観光客が激減し、地域経済にも深刻な影響が及ぶ中、荒尾市への旅行意欲を喚起し、宿泊者数の増加を図ることで、市内事業者の経営安定化に寄与するとともに、地域経済の回復に繋げることを目的に、市内宿泊施設で使える 3,000 円分のチケットを 500 円で販売する宿泊支援事業を実施した。

チケット販売開始直後に「令和 2 年 7 月豪雨」が発生するなど、好調な滑り出しとはならなかったが、福岡市を中心にメディアや駅などでプロモーションを行い、販売を伸ばすことができた。

その後、長洲町において新型コロナウイルスのクラスターが発生してしまったことなどにより熊本県のリスクレベルが引き上げられたこともあり、2,476 枚を販売したところで、事業終了となった。

宿泊チケット販売実績



令和２年７月９日 有明新報

2.7.09 新報

荒尾で宿泊 5倍お得

施設支援キャンペーン

荒尾市は「あらおに“Go ばい！”キャンペーン」と題し、宿泊支援事業を実施。市内4カ所の宿泊施設で利用できる宿泊チケット3千円分を500円で販売している。「5倍（Goばい！）お得なキャンペーン」として利用を呼び掛けている。

新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ宿泊需要の回復を図り、宿泊事業者の経営安定化や地域経済活性化につなげるのが目的。1010万円の予算を組んだ。チケットがなくなり次第終了となる。

対象となる施設はホテルヴェルデ＝本井手、ホテルブランカ＝下井手、HOTEL AZ熊本荒尾店＝万田、ビジネスホテル五十鈴荘＝四ッ山町。

チケット購入枚数に制限はないが、利用できるのは1人につき1泊当たり1枚まで。消費税込みで3千円を下回る支払いには使えない。販売ページにアクセスしてチケットを購入し、利用する施設に直接予約してから、宿泊当日の精算時にチケットを提示の上、差額を払う。利用期間を今月10日から9月30日までとしている。

問い合わせはチケット販売が日本旅行（電096・354・4480番）、宿泊施設については市産業振興課（電096863 1421番）へ。

（高本 明）

キャンペーンを紹介するチラシ

令和２年７月７日 熊日新聞

2.7.07 熊日

商品券補助など

荒尾市が支援策

荒尾市は新型コロナウイルスの影響で売り上げが低迷する商工業者への支援策として、荒尾商工会議所が発行する商品券を補助する。市内に、お得に泊まれる宿泊券も発行する。商品券は上乗せ分20％を市が助成。6千円分使用できる商品券を1冊5千円で4万冊発行する。8月7日から、あらおシティモールや、まるごとあらお物産館など市内24カ所で販売。利用期間は12月28日までで、市内の登録店でのみ使える。同会議所は約300店の登録を目指し、7月20日まで募集する。

宿泊券はグリーンランドのホテルなど市内4施設で利用できる。市のホームページからアクセスできるサイトで、3千円分の宿泊券を500円で3千枚販売。利用期間は7月10日から9月30日まで。1泊当たり1人1枚使用できる。（樋口琢郎）

●市内周遊促進事業「あらお周遊スタンプラリー」

市内の周遊観光の促進により、各観光施設の来訪者数増加を図るとともに、滞在時間の延長による観光消費額の増加を図ることを目的に、「万田坑」や「荒尾干潟」、「宮崎兄弟の生家」など、市内の観光施設を周遊させるスタンプラリーを開催している。参加賞として、世界文化遺産登録 5 周年記念「万田坑オリジナルタンブラー」を作成し、配付している。今回は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に鑑み、主な誘客エリアを市内及び定住自立圏域内として、プロモーションを行った。

令和 2 年 8 月 22 日 有明新報

2.8.22 新報

荒尾の魅力 満喫して
スタンプラリーでPR

スタンプラリーの開催を知らせるポスター

荒尾市を訪れた観光客に市の魅力を満喫してもらおうと、「あらお周遊スタンプラリー」が20日、始まった。世界文化遺産の万田坑など、市内12カ所の対象施設を巡るとオリジナルグッズなどがもらえる。市観光協会は「スタンプラリーをきっかけに荒尾を再発見してほしい」と呼び掛けている。2021年1月31日まで。

同市の観光パンフレットとしても使えるスタンプ帳を、全てのスタンプ対象施設や市内の宿泊施設で配布している。観光施設の利用増加を図るとともに、観光客に市内のさまざまな施設を利用してもらおうというもの。

万田坑、荒尾干潟水鳥・湿地センター、宮崎兄弟の生家・資料館でスタンプを押すと参加賞をプレゼント。1人1個まで、先着で万田坑オリジナルタンブラーがもらえる。

3カ所をクリアし、さらに小代焼の窯元4軒やあらおシティモールなどの対象施設のうち2カ所以上で押すと、グリーンランドフリーパス付きホテルヴェルデ平日ペア宿泊券などが当たる、まるごとあらお賞に応募することができる。

問い合わせは同協会事務局の万田坑ステーション（☎0968(57)9155番）へ。

令和 2 年 8 月 29 日 熊日新聞

2.8.29 熊日

荒尾の魅力 巡って知って

荒尾市観光協会は、世界文化遺産の万田坑や陶器の窯元など、市内の観光スポット12カ所を巡る「あらお周遊スタンプラリー」を始めた。来年1月まで。

12カ所の中で、万田坑と荒尾干潟水鳥・湿地センター、宮崎兄弟の生家の３施設のスタンプを集めると、万田坑が

観光協会スタンプラリー

描かれたオリジナルタンブラーが贈られる。この３施設に加えて、小岱焼の窯元など２カ所以上巡ると宿泊券などが当たる抽せんに応募できる。スタンプ帳は各スポットに置いてある。

新型コロナウイルスの影響による観光客の減少を受けた企画。荒尾市観光協会☎0968(57)9155。（樋口琢郎）

スタンプ帳（右）と３施設を巡るともらえるタンブラー＝荒尾市

●「まるごとあらお物産館オンラインショップ」オープン

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、通信販売の利用が一層拡大していく中、ニーズに合わせた販売方法を整備することで、市内の特産品等の販売促進を図るため、「まるごとあらお物産館オンラインショップ」を開設した。

オープニングキャンペーンとして「送料無料」や「購入者限定の抽選による賞品プレゼント」などを実施し利用促進を図っており、関東地方や関西地方からも注文が入るなど、徐々に売上げを伸ばしている。

令和 2 年 8 月 4 日 有明新報

2.8.03 新報

『新しい旅の体験』を
オンラインショップ開設
記念キャンペーンも開催
まるごとあらお

多くの人に特産品を届けようと開設されたオンラインショップ

遠方に住む荒尾ファンにも市の特産品を届けようと、荒尾市観光協会（山代秀徳会長）は7月31日、まるごとあらお物産館のオンラインショップを開設した。同協会のホームページもリニューアルし、物産館で取り扱う商品をインターネットで通信販売。新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込む市の観光業界の中で、新たな起爆剤として期待がかかる。

新型コロナ感染拡大防止のため4月に緊急事態宣言が出されたことも重なり、足を運べない人にも市の特産品を届けようと、市の補助金250万円を活用して着手。販売ツールの多様化による物産売り上げの増加と、それに伴う会員の経営支援を図る。

オンラインショップには、物産館で取り扱う市の特産品を掲載。小代焼や有明海産のり、荒尾梨を使ったカレーやオリーブオイルなど合わせて98品目を紹介している。今後は物産館で取り扱う約200品目全ての掲載を目指し、順次品数を追加していく。決済方法はクレジットカード、銀行振り込み、代金引換。

オープンを記念し、今月31日まで全国送料無料キャンペーンを実施。さらに、抽選で特産品が当たるキャンペーンも来年1月31日まで行っているほか、期間限定で小代焼の特集ページもオープンする予定。

「荒尾を訪れた観光客の方に、思い出の品を取り寄せていただきたい。夏休みやお盆に帰省できない人にも故郷の懐かしい品を届けたい」と同協会の水本博士事務理事。コロナ禍を踏まえ「『新しい旅の体験』を満喫していただければ」と呼び掛けている。

問い合わせは同協会事務局の万田坑ステーション（電0968 57 9155番）へ。（甲上　友樹）

●荒尾干潟でテーラー乗車体験

ラムサール条約湿地の荒尾干潟を活用した荒尾市ならではの体験プログラム「テーラー乗車体験」を開催した。2 年間の検討・実証を経て今年度から本格導入したプログラムであり、3 日間の開催で、親子連れを中心に市内外から約 60 人の方に参加いただいている。

令和 2 年 8 月 31 日　有明新報

親子ら干潟の魅力体感

テーラー体験始まる

荒尾

ラムサール条約登録湿地である荒尾干潟の魅力を体感してもらおうと、テーラー乗車体験が29、30の両日、荒尾干潟水鳥・湿地センター横の黒崎海岸で行われた。荒尾市内外から親子連れなど36人が参加、広大な干潟の上をテーラーでさっそうと走り、干潟の景色や鳥類を楽しんだ。荒尾干潟保全・賢明利用協議会主催。

海風を受けて干潟をさっそうと走るテーラー

干潟の感触を楽しめる参加者

令和 2 年 8 月 30 日
熊日新聞

干潟散策 進め耕運機

荒尾市で観光体験　家族連れ「気持ちいい」

荷台の付いた耕運機（テーラー）に乗り荒尾干潟を走る家族連れ＝荒尾市

アサリやノリ漁などで運搬に使う荷台の付いた耕運機「テーラー」に乗って、荒尾干潟（荒尾市）を散策する観光体験会が28日あった。青空の下、親子ら家族連れら36人は干潟の風景や潮の香りを楽しんだ。

ラムサール条約に登録されている荒尾干潟の魅力を感じてもらおうと、同市や地元漁協でつくる荒尾干潟保全・賢明利用協議会が企画した。賢明利用協議会が企画した。

企画は、7月に始める予定が、豪雨の影響で遅れていた。水鳥湿地センター横で、観光用に改造したテーラー2台（一台6人乗り）を干潮時に運行。参加者は、荒尾漁協組合員の運転で片道10分かけて約1・4キロ先へ進み、同協議会員からカニや貝殻などの説明を受けた。

家族で参加した八幡小2年の大熊莫音さん（8）は「二回の海を走るのは不思議な感じだったが、気持ち良かった」と話した。体験会の午内開催は9月11日のみ。乗車は事前予約が必要。同センター☎0968（57）7444。（樋口琢郎）

●インバウンド向けオンラインツアー

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により訪日外国人が激減する中、収束後を見据えた誘客の取組みとして、中国の旅行会社に向けたオンラインツアーを実施した。今回は、中国の方からの関心も高い「宮崎兄弟の生家」や「荒尾干潟でのテーラー乗車体験」を中心にコースを設定し、中国人キャスターに紹介してもらう様子を中国に向けて生配信した。

当日は、浅田市長も出演し、中国語を交えながらトップセールスを行った。また、荒尾市応援隊長の西村赤音氏も出演し、PR を行った。延べ 7,000 人ほどの視聴があり、新しいプロモーションの方法として一定の成果を得たところである。

令和 2 年 10 月 1 日　熊日新聞

中国の旅行会社向けに、宮崎兄弟の生家施設を法被姿でＰＲする浅田敏彦市長＝荒尾市

コロナ後へ　観光ＰＲ

荒尾市が映像配信

荒尾市は27日、新型コロナウイルスの収束後を見据え、中国の旅行会社に向けたプロモーション映像をインターネットでライブ配信した。市の観光資源をＰＲし、コロナ収束後のインバウンドを拡大させる狙い。福岡に事務所のある中国の旅行会社の仲介で実施し、市によると、関係者ら約3千人が視聴した。

この日、中国人キャスターが辛亥革命を主導した孫文と宮崎滔天の友情などを伝えている「宮崎兄弟の生家施設」や、ラムサール条約に登録されている「荒尾干潟」などを訪問。約2時間、施設の内容や干潟から見える景色、荒尾への交通アクセスを紹介した。インタビューで出演した浅田敏彦市長は「この時期だからこそ、配信は有効な情報伝達手段。中国から荒尾への観光客は少なかったので、今後増やしていけたら」と話した。（樋口琢郎）

令和 2 年 10 月 2 日　有明新報

荒尾の魅力を紹介したプロモーション活動

コロナ後の観光見据え

オンラインで魅力紹介

荒尾

新型コロナウイルス収束後の観光客誘致につなげようと、荒尾市が9月27日、中国向けにオンラインプロモーションを行った。浅田市長らが、荒尾干潟でのテーラー体験などをしたほか、オンラインプロモーションを行った。

プロモーションでは中国人キャスターが宮崎兄弟生家の見学や荒尾干潟でのテーラー体験などを紹介した。

浅田市長は「プロモーションは荒尾の魅力を中国の皆さんや観光関係者に広く伝えることができ、新型コロナ収束後の来年を見据えた有効な手段。新鮮な空気をいっぱい吸って元気になって帰ってもらいたい」と話した。また、中国以外の観光客誘致については「国に合ったニーズがある。しっかりマーケティングし、インバウンドにつなげたいとした。（矢野　大輔）

敬彦市長も参加し、交通のか、特産のマンボ梨、グリーランド、高専ダイを紹介。その様子を動画撮らに魅力をPRした。

同市では例年、約9千人の外国人観光客があったが、世界的な新型コロナ感染拡大によって日本への入国は制限され、今年はほぼゼロへ。同市は熊本県観光連盟と新型コロナ収束後の観光について協議。中国人向けの荒尾茶を手掛ける福岡市の海洋観光で協力してオンラインプロモーションを行った。

敬彦市長は「プロモーションは荒尾の魅力を中国の皆さんに収束後ゆっくり楽しんでもらえるよう、ぜひ荒尾市に来て観光について協議。中国人向けの荒尾茶を手掛ける福岡市の海洋観光で協力してオンラインプロモーションを行った。

中国人キャスターが宮崎兄弟生家の見学や荒尾干潟でのテーラー体験などを紹介した。

浅田市長は「プロモーションは荒尾の魅力を中国の皆さんや観光関係者に広く伝えることができ、新型コロナ収束後の来年を見据えた有効な手段。新鮮な空気をいっぱい吸って元気になって帰ってもらいたい」と話した。また、中国以外の観光客誘致については「国に合ったニーズがある。しっかりマーケティングし、インバウンドにつなげたいとした。（矢野　大輔）

アプリ「T-Mook」で中国へ生配信した。宮崎兄弟生家では浅田市長とマジックチャーチ が出演しトップセールス。浅田市長は「きょ国は制限され、今年はほぼゼロへ。同市は熊本県観光連盟と新型コロナ収束後の観光について協議。中国人向けの荒茶を手掛ける福岡市の海洋観光で協力してオンラインプロモーションを行った。

中国人キャスターが宮崎兄弟生家の見学や荒尾干潟でのテーラー体験などを紹介した。

浅田市長は「プロモーションは荒尾の魅力を中国の皆さんや観光関係者に広く伝えることができ、新型コロナ収束後の来年を見据えた有効な手段。新鮮な空気をいっぱい吸って元気になって帰ってもらいたい」と話した。また、中国以外の観光客誘致については「国に合ったニーズがある。しっかりマーケティングし、インバウンドにつなげたいとした。（矢野　大輔）

●バーチャル旅行者向け動画プロモーション

コロナ禍で自由な旅行が制限される中、動画やオンラインゲームを通じて旅行を疑似体験する「バーチャル旅行」が注目されてきており、動画などのツールを活用してインターネット上で魅力を発信することが重要になってきている。

そこで、荒尾市の魅力を動画にまとめ、動画共有サイトなどを含めてプロモーションを行うことで、コロナ収束後の誘客やオンラインを含めた物産振興につなげる。3月に動画完成、放映予定。

●荒尾干潟でのウォーキングコース整備

荒尾市の「荒尾干潟」と長洲町の「金魚」というそれぞれの保有する資源の魅力を発信するため、両市町・関係民間事業者と連携して取組みを検討しており、今年度、「荒尾干潟水鳥・湿地センター」と「金魚と鯉の郷広場」を結ぶウォーキングロードを整備する。

ウォーキングコース案内板や水飲み場を設置するとともに、ウォーキングマップを作製する予定。